

11 感染制御部



感染制御部は専従医師2名、看護師3名、薬剤師1名、専任検査技師1名を中心とした多職種で構成され、チーム医療による感染症診療、院内感染防止対策、職業感染対策を行っている。具体的には、①診療科からの依頼による感染症の治療や抗菌薬使用方法のコンサルテーション、②院内伝播の拡大防止策を実施している(11-1)。また、③血液培養など無菌検体からの陽性例や抗菌薬耐性菌検出時の対策についての介入、④抗菌薬使用量の監視による適正使用の推進(11-2)、⑤MRSA薬などの血中濃度の測定(TDM)が必要な抗菌薬の投与設計と適正使用の推奨、⑥職業感染対策としての流行性ウイルス疾患ワクチンの接種計画や結核接触者健診、⑦各種サーベイランス実施、など感染症、院内感染管理について幅広い業務を行っている。

【抗菌薬適正使用の推進】

2006年2月の感染制御部設立とともにantibiotic stewardship 活動を開始した。バランスのとれた抗菌薬使用を実施できたが、タゾバクタム/ピペラシリンおよびカルバペネム系薬の使用頻度が増加したため、2017年11月からはタゾバクタム/ピペラシリン、2019年9月からはカルバペネム系薬の処方後24時間以内に評価を行い、処方変更などを提案する「処方後の評価とフィードバック」を行っている(11-2)。

【感染管理ラウンド】

感染管理上問題となる病原体(耐性菌、インフルエンザ、麻疹、ノロウイルス等)検出時に即時に介入し、その後も個室隔離や経路別予防策の適応についてフォローを行っている。耐性菌に関しては、過去に1回でも検出があった保菌者の再入院症例もフォローしている(11-1)。

【手指衛生遵守率の向上】

2010年後期から手指衛生遵守率向上のための多面的介入を開始した。2019年度の1患者あたりの手指消毒回数は、一般病棟では10.9回から14.9回に上昇し、私立医科大学病院感染対策協議会のトップ25パーセント値に達した。一方、ICUとEICUでは減少傾向にあるため、更なる啓発活動が必要である(11-3)。

【アウトブレイク対策】

2006年に救命救急センターにおいて多剤耐性緑膿菌、2013年～2014年に下部消化器外科および救命救急において、カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)のアウトブレイクが発生し、その対応を行った。2018年度はNICU/GCUにてMRSAが多発し、私立医科大学病院感染対策協議会の外部評価を受審した。その後、手指消毒回数の増加(2019年度 103.1回)や接触予防策の徹底、診療制限により検出率の低下を認めている(11-4.5)。

【新型コロナウイルス感染患者への対応】

新型コロナウイルス感染患者への対応として、外来では帰国者接触者外来を設立し、内科全体での輪番制、その後外科全体での輪番制を開始するなど、各科の医師の協力と共に対応を行っている。

入院の受け入れに関しては、救命救急で最大5床まで増床し(重症患者を対象)、感染対策および治療のサポートを行っている。

11-1 年度別コンサルテーション件数とラウンド症例数(感染症治療ラウンド・感染管理ラウンド)

(件)

区 分	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
コンサルテーション ・ 介入症例数	感染症治療	989	946	1,117	1,183	1,172
	感染管理	746	961	841	921	936
	合 計	1,735	1,907	1,958	2,104	2,108

11-2 年度別抗緑膿菌活性を有する抗菌薬の使用割合と使用量

(%)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
タゾバクタム/ピペラシリン	40.1	40.7	34.0	29.4	29.6
カルバペネム	27.4	26.1	25.2	28.1	30.9
4世代セフェム等	21.7	22.0	26.8	28.6	27.0
キノロン	10.9	11.2	13.9	13.9	12.5
A H I ※	0.77	0.78	0.85	0.85	0.83
使用量(使用日数/1,000患者日)	70.1	77.5	73.9	69.9	78.9

※抗菌薬の使い分けの指標：均等に抗菌薬を使用すれば数値は1となる(目標：0.85)。

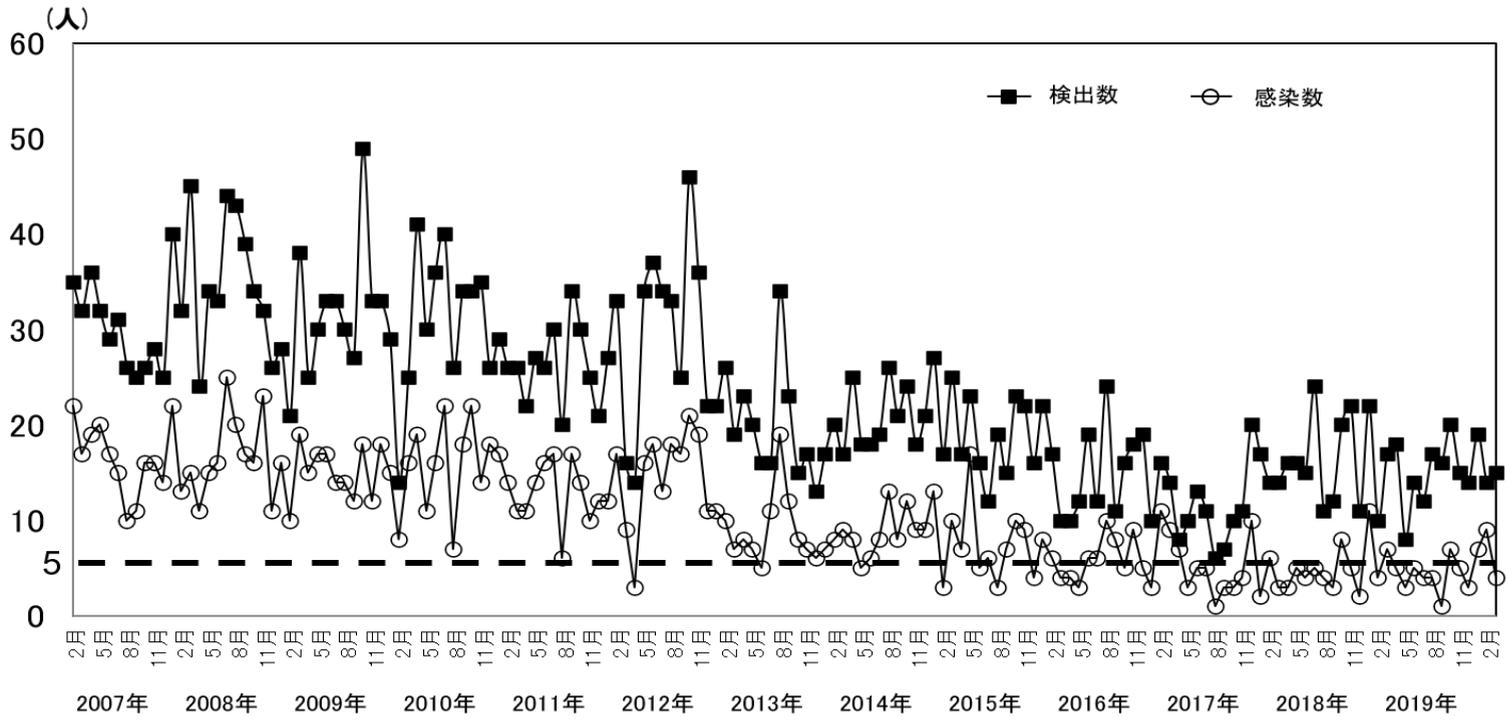
11-3 年度別アルコール手指消毒薬から評価した1患者日あたりの手指消毒回数

(回)

部署	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
クリティカル部門	ICU	28.4	43.4	47.6	68.9	56.8
	EICU	—	—	—	80.0	63.0
	NICU/GCU	23.3	32.2	53.3	56.5	103.1
一般病棟	6.0	9.3	9.1	10.9	14.9	
全体	7.9	11.5	12.0	13.9	18.3	

※2018年度より表記方法変更

11-4 新規MRSA検出の推移



11-5 耐性緑膿菌検出の推移

